

## 令和元年度研修支援

### 「花山小学校セカンドスクール」

- 1 趣 旨
  - (1) 国立青少年教育施設の役割の一つである学社融合を一層推進する観点から、当施設がもつ教育環境・教育資源を活用した体験的な学習活動を展開し、新学習指導要領が目指す児童の生きる力の育成を図る。
  - (2) 新学習指導要領の教育課程に沿ったプログラムを提供し、実施することで、今後の当施設での学校向けのプログラムの検証を行う場とする。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 共 催 栗原市立花山小学校
- 4 協 力 花山小学校協働教育推進委員会・宮城県ホッケー協会
- 5 概 要
  - (1) 期 日 令和2年2月12日(水)～14日(金) 2泊3日
  - (2) 参加者 栗原市立花山小学校 1～6年生  
男12名 女12名 計24名
- 6 場 所 国立花山青少年自然の家

#### 7 企画・運営のポイント

日常の学校生活に本施設での集団宿泊活動を加えることで、児童の自立と共生の意識を高めることをねらいとした日程を組んだ。基本的な1日の流れとして、日中のスクールタイムは学校が主体となって進め、夕方からは職員とボランティアが本施設での生活支援を行うことで学社融合を図った。スクールタイムでは、花山小学校職員と当施設の職員が連携して、日常の授業に加え、当施設ならではの体験的な学習（雪遊びやスキー、クラフト活動等）の指導にあたった。ボランティアは、自学タイムでの学習支援や花山タイムでの活動の企画運営、生活面での支援を行った。

#### 8 日 程

2月12日(水)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
			学校出発	はなやままるごと自然博物館 1・2年 <雪遊び・雪上活動> 3・4年 <歩くスキー> 5・6年 <アルペンスキー>	スクールタイム	昼食(弁当)休憩	スクールタイム	終わりの会	自学タイム	つどい	夕食	はなやまタイム	入浴休憩準備	就寝			
学校職員&自然の家職員											自然の家職員&ボランティア						
2月13日(木)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	起床	洗面・清掃	つどい	朝食	準備	スクールタイム	昼食(食堂)休憩	スクールタイム	終わりの会	自学タイム	つどい	夕食	はなやまタイム	入浴休憩準備	就寝		
自然の家職員&ボランティア				学校職員&自然の家職員							自然の家職員&ボランティア						
2月14日(金)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	起床	洗面・清掃	つどい	朝食	準備	スクールタイム	昼食(食堂)休憩	スクールタイム	別れのつどい	自然の家出発	学校着・下校						
自然の家職員&ボランティア				学校職員&自然の家職員													

## 9 活動の内容について



【スクールタイム】



【クロスカントリー体験】



【そり・チューブ体験】



【所長による算数の授業】



【はなやまタイム】



【ホッケー教室】

## 10 成果と課題

### (1) 参加者アンケート結果

満足：96% やや満足：0% やや不満：4% 不満：0%

### (2) 参加者の声

- ・ 早起きができた。(1年)
- ・ 1年生に優しくすることができた。(2年)
- ・ 大人に手伝ってもらわなくても自分でできることが増えた。(3年)
- ・ 自分から進んでたくさん手伝いができるようになった。(4年)
- ・ 自分で考えて行動できるようになってきた。(5年)
- ・ 縦割り班のリーダーとして、前よりもみんなをまとめられるようになった。(6年)

### (3) 成果

- ・ 学校からの「ぜひ、雪の活動に取り組みさせたい。」という強い要望から、当初、2日目に予定していた雪のプログラムを初日に行った。天候や学校の要望をもとに、柔軟にプログラムを変更することができた。
- ・ 昨年度は、1・2年生は1泊での実施であったが、今年度は全校を2泊3日とした。事前打合せの徹底を図ることで、配慮の必要な児童等の情報の共有ができ、24名全員が安心して2泊3日を過ごすことができた。
- ・ 小学校教員や自然の家職員、ボランティア、大学のスポーツマネジメント実習生、ゲストティーチャー（宮城県ホッケー協会）など、いろいろな人と関わりながら学習に取り組んだり、生活したりすることで、児童の大きな成長へつながった。
- ・ 「マイスプーン作り」という、当施設にはないプログラムを設定することで、職員にとってもプログラム開発の良い機会となった。

### (4) 課題

- ・ 朝食から1時間目開始までの間が慌ただしかった。次年度以降、朝食の時間を早めるなどの改善が必要である。
- ・ 全校児童数が少なく、複式学級であるため教室を確保することができた。他の学校で当事業を実施する際の教室やプログラムの設定等を探っていきたい。

担当：企画指導専門職 黒田 守道